

超高精細デジタル画像で見る古典と古地図の世界 －平家物語、源氏物語、坤輿万国全図－

角谷賢二

関西大学客員教授&国際美術研究所所長
(元日立マクセル株式会社取締役CTO)



平家物語絵巻：林原美術館所蔵 越前松平家伝来品 全36巻

- ▶ 平家物語は、「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり」の名文ではじまる。平安時代末期に台頭した平家一族の栄華と、源氏との争いによる滅亡を、個性あふれる登場人物で描いた中世最大の物語。
- ▶ 江戸時代前期、土佐佐助によって描かれたと伝えられる。
- ▶ 越前松平家伝来の平家物語絵巻は、全36巻。



源氏物語図色紙 －色紙8枚の高精細デジタル化－

- ▶ 本色紙のものは「源氏物語」54帖分の色紙がセットになっていたと思われる。現在は数枚の色紙が伝わっているのであろう。やまと絵師・土佐光吉（1539～1613）考案の図様を手本として描かれている。土佐光吉の工房では細密な源氏絵が数多く制作され、桃山時代から江戸時代前期にかけて人気を博した。本作は、光吉やその工房の作と比べるとモチーフがかなり省略され、描写にも崩れが見られることから、江戸時代前期に土佐派の源氏絵を学んだ町絵師の工房で制作されたものと思われる。
- ▶ 比較：「源氏物語画帖」パーク財団所有。土佐光起（とさみつおき）（1617～1691）は、江戸時代の土佐派を代表する絵師。父は土佐光則。



土佐光吉

- ▶ 土佐派は、室町時代以来、宮廷の絵所預（えどころあずかり）として「やまと絵」を制作していた。永禄12年（1569）、棟梁・土佐光茂（みつもち）の嫡男である光元が戦死したことにより転機を迎えた。光茂は弟子の光吉に工房を任せ、光吉は京都から堺に工房を移した。商業都市・堺において、光吉とその工房の絵師たちは、堺の人々を描いた肖像画などを制作した。武將たちが天下統一をめざして戦を繰り返した16世紀後期から17世紀前期、土佐派の「やまと絵」は堺で命脈を保った。
- ▶ 土佐光吉（1539～1613）は、戦国時代から江戸時代初めにかけての黄金時代の堺で活躍した絵師。

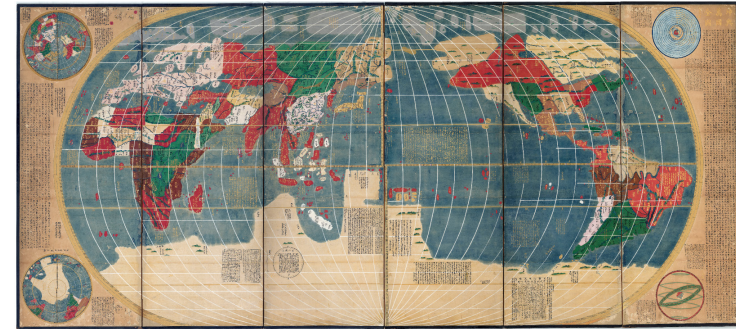


坤輿万国全図池田家本調査研究 プロジェクト

略号：KBZプロジェクト

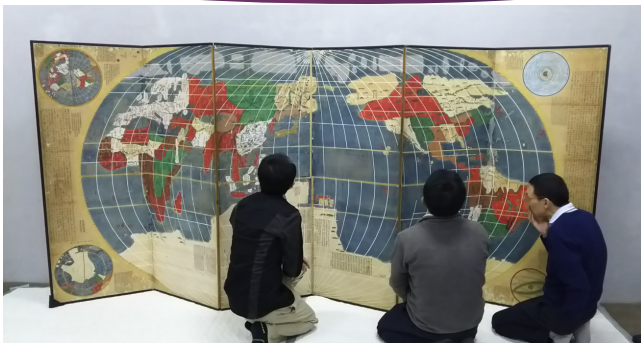
超高精細デジタル化画像をベースとしての研究

坤輿万国全図写本：林原美術館所蔵 池田家伝来品
縦164.7cmx横376.0cm 六曲一隻の屏風



坤輿万国全図写本：林原美術館所蔵

2017.11.22



坤輿万国全図とは？

- ▶ 中国明の時代、万暦30年（1602）北京で刊行された地図
- ▶ 明代、イタリア人宣教師マテオ・リッチ、中国名利瑪竇（りまとう）、Matteo Ricci（1552-1620）が、中国に伝えたヨーロッパの世界地図をもとに制作。
- ▶ 李之藻が漢訳
- ▶ 太平洋を中心にし、中国、日本が図面の中央近くにある。
- ▶ 図中のアルファベットを音訳して漢字で表記
- ▶ 原本：木版刷りは日本に3点（京都大学付属図書館、宮城県立図書館、？）
- ▶ 六曲一隻の屏風仕立て

